

「BELIEVE」

BELIEVE

2016  
夏号  
VOL.57

「BELIEVE」

特集 「熊本地震」への当院の対応



山野 将志「バイオバブの樹」・制作年/2010・素材/アクリル、紙、パネル  
(エイブルアート・カンパニー所属 URL:<http://www.ableart.com.jp>)

シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔 57 緩和ケア科部長 端 裕之

- 食だより「お知らせ 産科の『お祝い膳』をリニューアルしました!」／お薬ミニ知識「お薬手帳は持っていますか?」
- がんサポートチームからのお知らせ／＼かかりつけ医、をもちましょう

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは  
人道・博愛の赤十字精神に基づき  
すべての人の尊厳をまもり  
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

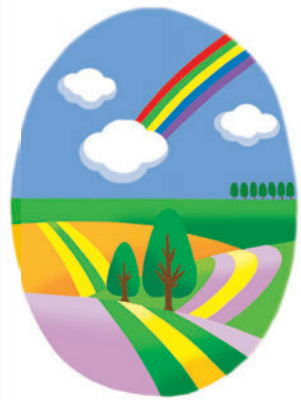
1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります





# 「熊本地震」への当院の対応 国際医療救援部

平成28年4月14日(木)および16日(土)に、震度7を観測した熊本地震が発生しました。発災当日から熊本に赴き、当院からは計84名の職員が救護員として救護活動にあたりました。発災から撤収までの約1カ月間にわたる救援活動について、国際医療救援部から報告します。



## 発災から出発、現地へ

平成28年4月14日(木)夜に発災した熊本地震に対し、大阪赤十字病院は直ちに16名の人員を集め、深夜にトラック3台とマイクロバス1台で出発しました。しかし、この最初の地震では被害が限定されていたことから、一旦引き返すこととなりました。そして、16日(土)の本震により再び16名の職員とトラック3台、マイクロバス1台、ホスピタルdERU(※1)のうち、外来棟、レントゲン室、手術室を積んで再出発、南阿蘇村に向かいました。南阿蘇村では、最も被害が大きかつ

た長陽地区の南阿蘇中学校体育館前に仮設診療所を展開しました。



マイクロバス1台とトラック3台で出発



設営場所を決定



テント設営



設営完了  
(左コンテナ:レントゲン室、中央テント:外来棟、右テント:手術室)

## での診療活動



▲テント内でミーティング



◀最初の1週間は24時間診療

▼ホスピタルdERUで超音波検査



4月19日から本格的にホスピタルdERUで診療を開始しました。南阿蘇中学校体育館の避難所には、当初600名以上の方々が避難されており、またこの地区で唯一の医療施設であった立野病院が地震により被災したため、避難所外からも多くの方々来院されました。

発災後1週間は24時間診療を行い、その後も夜間救急に対応しました。途中、避難所内でノロウイルスの感染が発生し、診療活動とともに感染予防のためのさまざまな活動も行いました。

今回は、日本で初めて、災害時の医療救護で野外レントゲンシステムを稼働しました。このシステムは、外来棟、式を出して空になったコンテナがレントゲン室になるよう設計されています。発災後しばらくは停電などの影響で、南阿蘇村ではレントゲンが撮れる医療機関がなかったこともあり、他の地区からの紹介も含めて50件の撮影を行いました。

外来棟の横に手術室も展開しました。緊急時に備えて、災害時に必要となり得るさまざまな手術のほとんどをこの手術用テントで行えるよう、資機材を



## キッズルーム

海外では災害発生の後、子どものこころのケアの一環として、遊び場所を提供し、一緒に遊ぶという活動がよく行われます。これはチャイルド・フレンドリー・スペース (Child Friendly Space) と呼ばれ、昨年4月に起こったネパール地震の緊急救援でも、日本赤十字社は医療救援と並行して子ども用のテントやバドミントンコートを作り、一緒に遊ぶ場所を提供しました。当院では、以前よりホスピタルdERUの機能に、チャイルド・フレンドリー・スペースのモジュールを用意していました。

今回、南阿蘇村では体育館での避難所生活が長引き、子どもの遊ぶスペースがないことから、発災2週間後の4月29日に、ホスピタルdERU前に、被災者の方にわかりやすいよう「キッズルーム」と名付け、チャイルド・フレンドリー・スペースを設営しました。子どもなら30名程度は入れるテントに、断熱材とマットを敷き、いろいろなおもちゃやボールなどを用意し、当院職員や地元のボランティアさんたちと一緒に子どもたちの世話をしました。

テントには毎日15名前後の子どもが来て遊びましたが、子どもだけでなく保護者も息抜きができるスペースとなりました。



手書きの案内板



キッズルーム外観



ボランティアさんにも遊んでもらいました



日赤救護服の子どもサイズを試着

## ホスピタルdERU (domestic Emergency Response Unit) ※1

1990年代に国際赤十字は、自然災害に即応できるよう、あらかじめ必要な資機材をまとめてユニットにするという構想を打ち出し、Emergency Response Unit (ERU) を作りました。ERUにはクリニック型やホスピタル型、あるいは水を供給するタイプ、通信専門など、多くの種類のユニットがあります。



外来棟、レントゲン室、手術室、ICUを展開したところ(訓練時)

日本赤十字社は、医療チームを国内災害に即応させるため、ERUの国内版を作る計画を立て、厚生労働省と共同で、昇降式コンテナに仮設診療所を開設できるすべての資機材を積み込んだトラックを平成14年に開発しました。この国内型ERUをdomestic ERU (dERU:デル) と呼びます。

現在、20基が太平洋側を中心に全国に配備されていますが、大阪以外の他の19基がいずれもクリニック型のdERUであるのに対し、大阪赤十字病院のdERUは全国唯一のホスピタル型のユニットで、レントゲン室や手術室、ICU、病棟テントも備えています。全展開すると、小学校のグラウンドくらいの広さになり、テント12基とコンテナ1基が配置されます。

## 災害救援の専門部署「国際医療救援部」

『びり〜ぶ』でも何度か紹介されていますが、当院では国内外の災害・紛争の救援を専門に扱う、「国際医療救援部」という部署を持ち、国際救援課と国内救援課に分かれています。国際救援課は、海外の災害や紛争などへの緊急対応、復興支援などの事業運営や職員派遣を常時行っています。国内救援課は、災害のない平時に



緊急態勢の救援部

は、職員研修や資機材の開発、維持管理、公的イベントでの臨時救護などを行っています。

今回、東日本大震災以来5年ぶりに非常態勢となり、国内、国際の両救援課で熊本地震対応にあたりました。発災直後から救援部は、派遣する職員の選定から資機材の準備、ルートや目的地の探索、追加物資の調達と輸送など、院内の多くの部署からの応援を得て24時間体制をとり、救援部職員も熊本と大阪を行き来しながら現地での支援と後方支援を行いました。

▶当院小児科医が子どもたちを診療



▲レントゲン室での撮影



◀コンピューターでのレントゲン画像の処理



▲手術室を使って福岡の口腔ケアチームが診療

揃えています。今回は、幸いにして大きな手術をこちらで行うことはありませんでした。

5月に入り、地元で仮設診療所を開くめどが立ったため、ホスピタルdERUは5月16日に撤収しました。発災から約1カ月間で、巡回診療を含めて1,000名以上の方が受診されました。医療に関してはは地元の医療機関に引き継ぎましたが、日本赤十字社では、精神的な支援である「こころのケア」活動を継続して行っています。

阪神大震災や東日本大震災でもわかるように、大きな地震からの復興には長い時間がかかります。熊本の二日も早い物心両面の復興を、心よりお祈りしております。



# 端 裕之

緩和ケア科部長



**HIROYUKI HASHI** 6月4日、滋賀県生まれ。北海道大学医学部卒業。京都大学、岸和田市、大和高田市の病院にて研修の後、京都大学医学部博士課程。平成12年～16年アメリカで研究留学を経験。帰国後、当院の消化器外科医としてがんサポートチームに属し、緩和ケア専従医に。平成27年、緩和ケア科部長に就任。

痛みや心配いっしょの「しんや」がやわらぐように。  
「じじがあつてよかった」と感じてもらうえる。科にしていきたい。

●がんに対する不安、治療に対する心配を、安心に変えられるように。

「もしがんになったら」。がんを克服できるのか？今の生活はどうなるのか？誰もが心に抱く不安や心配に寄り添う医療として新設されたのが緩和ケア科。発足して1年、部長には、もともと消化器外科医で、今は緩和ケア専従医である端医師が就任している。「医療者は、担当する患者さんには思い入れがあるんですね。『納得のいく治療を提供したい』という思いなのですが、患者さんのイメージ通りに行かないときもあります。外科医の頃は、患者さんがどのような思いで治療を受けておられるのか、じっくりとお伺いする時間を作るとはとても難しいことでした。患者さんの思いを叶えるべき主治医である自分が、忙しいことを理由に患者

さんの訴えに耳を閉ざしているのではないかと。日々不自然さを感じていたのかもしれないね。」

そんな外科医時代を経て、現在は、緩和ケア外来で外来患者さんの緩和ケアを行う一方で、医師・看護師・薬剤師など、多職種で構成されたがんサポートチームとともに病棟を廻り、がん治療を受けている患者さんと終末期の患者さんが抱える痛みつらさへのケアを行っている。「病気による痛みに対してはなるべく原因を探りながら対処を考えますが、がんの患者さんの場合には物理的な痛みによる苦痛に加えて、不安やいらだちといった『精神的苦痛』や仕事や家庭、療養費の不安などの『社会的苦痛』、死への恐怖や自責の念といった『霊的な苦痛』を抱えておられると言われています。これら『痛み以外の苦痛』を和らげることが『痛みによる苦痛』を和らげることに繋がることが多いので、患者さんやそのご家族、担当医師や看護師から情報を得るよう心がけています。患者さんやご家族がどのくらい満足されているのかは、とても気になるので、それらの方々と直接向き合う

主治医・担当看護師としっかり連携して、問題をひとつひとつ解決できるように努めています。」

●休日は雑草と虫に囲まれて畑作業。癒しの時間です。

端医師の休日は、ここ3年ほど庭の草木や生き物を楽しむ時間になっている。「見ようによっては住宅街の中の草ぼうぼうの荒地にも見えますが、その分生息物は多く、鳥もやって来ます。それらを見るだけでもほっとするのですが、ところどころに植えている野菜を



庭の「アシタバ」と蝶。

虫と分け合って食べられるのもまた楽しいですね。」

緩和ケア科は多くの病院に開設されているものの、どこも人不足なのだそう。「後輩の育成は大変なことですが、緩和ケアがどのくらい役に立っているか、また結果として見えていないこともあり、若手の希望者が少ないのが現状です。今はそれぞれの患者さんがその人らしい療養をしていただけることを第一に、自分たちの仕事の質を高めていく。そして、患者さんとそのご家族に、『この病院で診てもらえてよかった』『緩和ケア科があつてよかった』と感じてもらえたら、うれしいですね。」

## 看護師レポート・57



いろんな環境で学んで、経験して、看護の仕事を楽しんでもらいたい。

看護師長 徳永 典子

看護師として働くことを考えたきっかけは、母の「看護師が向いているのでは？」という言葉でした。小さい頃から人見知りでおとなしく、人とコミュニケーションをとるのが苦手、自分でも「人と接する仕事ができるのかな？」と思っていました。母のアドバイスは合っていたんですね。

現在は、呼吸器内科・外科、整形外科、眼科の混合病棟で、看護師の看護管理、育成に携わっています。師長1年目のときは、初めて外来を担当することになり、どう動けばいいのか、師長として仕事ができているのか、とても不安でした。そんなときに、周りに「何が必要か、一緒に考えよう」と伝えただことで係長が支えてくれ、「外来はこうしていきたいね」と、理想を一緒に描いていくことができました。そのあたりから師長としての思いも膨らみ、仕事が楽しくなってきたと思います。

師長になってからは、長い休みがとれないので、仲のいい係長たちと誘い合って、日帰り旅行に行くこともあります。学会の帰りの食べ歩きも、楽しみのひとつです。何も予定がないときは、家でんびりまったりしていますね。



職員との旅行先で楽しい一枚。

いろんな病棟で、立場の違う仕事を通して学んでこられたのは、ラッキーだったと思います。熊本地震の際には、被災地への救護班に参加しました。救護活動は体力も必要なので、若い看護師たちに活躍してもらいたいですね。当院の看護師たちは目標も高く真面目なので、本人は「できていない」と思いがちです。ですが、客観的に見ると成長しているのがわかります。ひとりではできないことが多い仕事だから、頼ることも大事です。看護師たちには楽しく働いてもらいたいし、私も楽しく働きたい。明るく、楽しく、仕事ができる環境をつくりたいと思っています。

NORIKO TOKUNAGA

12月18日大阪府生まれ。大阪府立公衆衛生看護専門学校を卒業後、当院に就職。内科、眼科などの病棟看護を務める。平成14年より看護係長となり、集中治療部、血液内科の病棟の看護を経て、平成22年より看護師長に。現在は病棟看護の管理・看護師育成に従事している。





## 産科の『お祝い膳』を リニューアルしました！

「当院では出産された方に『お祝い膳』を提供しています。この度、その『お祝い膳』をリニューアルしました。これまでの『お祝い膳』では、尾頭付き鯛を提供していましたが、「豪華でめ得太い料理」と好評を得る一方、「ボリュームがあり過ぎて食べきれない」という声も寄せられていました。そのようなご意見を踏まえ、食べやすさにも配慮し、また、旬の食材を

取り入れて、いろいろな料理を楽しんでいただくために、二品目を小さく少量にして、品数を増やしました。栄養のバランスが良いのはもちろんのこと、見た目も楽しんでいただけるよう彩り良く改善しました。特にサラダは生野菜をしっかりと摂っていただけるよう、試行錯誤を重ねました。デザートには、フルーツに加えてケーキを添えました。ケーキは母乳への影響に配慮し、一口サイズではありますが、2種類の濃厚な味を楽しんでいただけます。

栄養管理課では、『お祝い膳』だけでなく、すべての入院患者さんのお食事を、徹底した衛生管理のもと、当院の調理師が心を込めて、腕を振るって調理しています。今後もさらに入院患者さんに満足していただけるよう、栄養面のみならず、美味しく、安全、安心なお食事を提供し、皆さまの治療に貢献できるよう努力を重ねていきたいと思います。

### 入院患者さんの食事について

当院の栄養管理課では、1回に約700食、1日にして約2,000食の食事を用意しています。食事の種類においては、常食や離乳食などの一般食、糖尿病食などの治療食、刻んだりペースト状にするなど形態を変えたものやアレルギー食などの個人対応食を含め、約30種類あります。

食事からも病状が改善され、1日も早く退院できることを目的として、管理栄養士と調理師が協力し合い、献立作成から調理法、味付け、盛り付けなどの工夫を行っています。



※季節により内容が異なることがあります。ご了承ください。

## お薬 三二知識



薬剤部 薬剤師 上田 佳澄

## お薬手帳は持っていますか？



お薬手帳とは、病院で処方されたお薬の名前や量、服用方法、アレルギーや副作用歴を記録していく手帳です。この手帳があれば、いつでもこの病院でどのようなお薬が出されたかがわかるため、患者さんが普段何を服用しているのか、過去にどんな病気にかかり、増え続けています。また、私も見たことはありませんが、電子お薬手帳もあるそうです。今回はお薬手帳についてのお話です。



一冊にまとめてください  
一冊にまとめることで  
複数箇所の病院で  
出されている薬が  
一目で確認でき  
それぞれの病院で  
処方されている薬の  
相性や重複がないか  
チェックできます

震災のニュースでお薬手帳のことを知った方も多いのではないのでしょうか。実際、私が熊本地震の救援に行った際、お薬手帳を持参される方がとても多いという印象を受けました。お薬手帳にはお薬を含め、貴重な情報がたくさんつまっています。これがあれば、普段何をどれだけ服用しているのかがわかるため、災害時であっても、いつも服用している薬を安全に処方してもらうことができます。災害はいつ起きるかわかりません。家で大事に保管するのではなく、いつでも持ち歩くようにしてください。

お薬手帳がいかに便利かということが、お伝えできたでしょうか。お薬手帳を含め、お薬についてわからないことがあれば、気軽に当院薬剤師にご相談ください。



# 『がんサポーターチーム』 からのお知らせ

がん性疼痛看護認定看護師 津本友美

vol.30

国が推奨する「がん」診断されたときからの緩和ケアをさらに勧めるために、平成28年4月より、がんサポーターチームの一員である「がん性疼痛看護認定看護師」が、各科外来を廻り、活動しています。がん性疼痛看護認定看護師とは、がん患者さんが抱えるさまざまな苦痛、身体の苦痛だけでなく、こころのつらさを含むあらゆる問題を緩和するため、患者さんやご家族と一緒に考えることが役割です。医師から依頼があると、がんであることや病状を説明するときなどに同席し、患者さんやご家族からの相談をお受けすることができるようになりました。



がんと告げられることは衝撃的な出来事であり、しばらくは不安や落ち込みで眠れなかったり、食欲がなかったり、集中力が低下したりする人もいます。診断後はさまざまな検査結果をもとに、どのような治療を行うかを決めますが、治療をどのように選択したらよいか迷う人もいます。また、治療を受けていても残念ながら

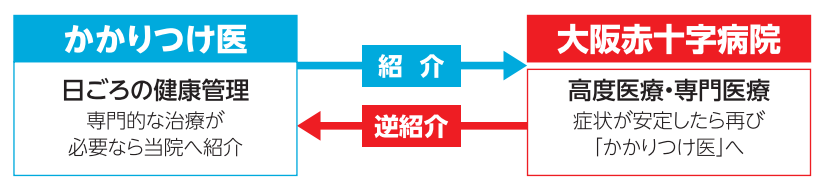
再発や転移が起こり、今後の治療と生活の両立について悩む人もいます。がんに向き合うさまざまな経過のなかでは、誰もが不安や疑問、悩みを感じます。外来に通院する上で、そのような不安や悩みが続く場合には、医師にがん相談担当の看護師が診察時に同席できないか、尋ねてみてください。

医師や看護師に相談するほどではないけれど、病気や治療、療養生活などについて何か知りたいと思ったことがあれば、自分で調べてみることも不安を軽減する方法のひとつです。情報を得ることで、漠然とした不安が軽減したり、治療を選択するひとつの判断材料になったりする場合もあります。情報探しの第一歩として、当院2階の「患者情報室」では、それぞれのがんについてのパンフレットを入手することができます。また、インターネットで「がん情報サービス(ganjo.jp)」を検索したり、「がん看護相談室」を利用することも可能です。

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

## 「かかりつけ医、をもちましょう」登録医紹介

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる「かかりつけ医」をもちましょう。



### よなみね耳鼻咽喉科

- 院長/與那嶺 裕
- 診療科/耳鼻咽喉科・アレルギー科・気管食道科
- 住所/大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-21  
ウェルライフ上本町クリニックプラザ
- 電話/06-6773-4731
- 休診日/金曜日、土曜日午後・日曜日・祝日
- 診療時間



外来	月	火	水	木	金	土	日
午前(9:00~12:00)	○	○	○	○	○	○	△
午後(16:00~19:00)	○	○	○	○	○	○	△

**特長** 大阪赤十字病院耳鼻咽喉科で「心のかような高度の医療」を目指し、約10年勤務していました。そこでは、年間1,000件を超える手術が行われ、当然、外来も混雑することが多かったため、大阪赤十字病院のすぐ隣で、大阪赤十字病院と強い連携を持ち、患者さまによりわかりやすく、より納得していただける外来診療を目指し、平成19年に開院いたしました。

**地域の皆さまへ** みみ、はな、のどの病気は外から見えないことが多いため、電子スコープや顕微鏡、超音波などの画像を、いつでも見ていただける環境で、病状や治療経過をわかりやすく説明いたします。また、鼓膜の手術、アレルギー性鼻炎の手術、咽頭・喉頭の手術を外来で安全に行い、より高度な治療が必要な場合は、迅速に大阪赤十字病院へ紹介いたします。耳、鼻、アレルギー、のど、めまい、頸部の腫脹などの症状があれば、いつでもお気軽にご相談ください。

### 医療法人明香会 やすなりみどり診療所

- 院長/安成 春美
- 診療科/内科・小児科・消化器科・循環器科
- 住所/大阪市生野区巽南3-7-8
- 電話/06-6758-5511
- 往診/有
- 訪問診療/有
- 休診日/水曜日午後・土曜日午後・日曜日・祝日
- 診療時間



外来	月	火	水	木	金	土	日
午前(9:00~12:00)	○	○	○	○	○	○	△
午後(16:30~19:30)	○	○	○	○	○	○	△

**特長** 平成7年に開業以来、消化器疾患、高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病および、小児科疾患などを中心に、最新の機器を使いながら、患者さん一人ひとりの健康推進と健康寿命の延長を目指して、日々努力しております。

**地域の皆さまへ** 地域に根ざしたかかりつけ医になるよう、努力しております。院長は女性医師で、女性の方でも安心して受診できます。他にも2名の女性医師が小児科外来、消化器科外来を週1回ずつ担当しています。駐車場(11台)完備しています。再診の患者さまは随時窓口での受診予約、診察当日のWEB予約ができます。



# 避難所で起こる病気

国際医療救援部 副部長 渡瀬 淳一郎



災害発生後には、たくさんの方々が避難所やマイカーの中での生活を余儀なくされます。直接の地震などによるケガではなく、このような特殊な環境下で生活することが原因で起こりやすくなる病気があります。実際に、私たちが活動を行った南阿蘇村の避難所で問題となった病気について述べます。

## ●エコノミークラス症候群

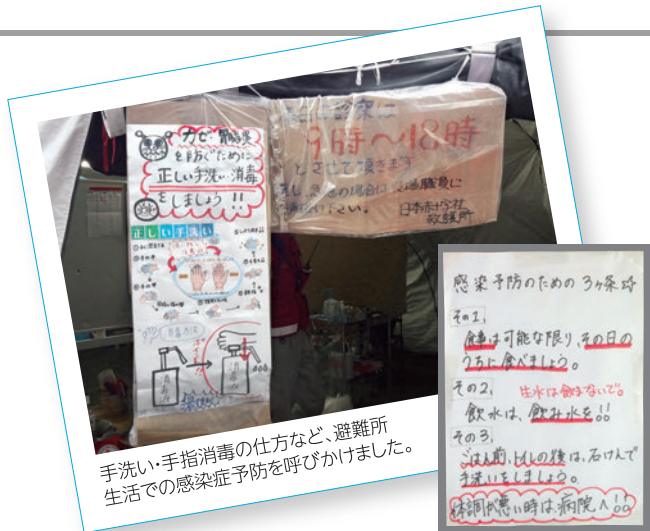
今回の地震は、強い地震が長期間に渡って発生したこともあり、当初南阿蘇中学校のグラウンドも車中泊の車でいっぱいでした。この病気は、車中のような寝る姿勢が制限された状態で、長時間じっとしていることにより、下肢の静脈内に血の固まり（血栓）が形成され、脚が腫れます。その後、血栓が血管内を流れて肺に移動し、肺塞栓症を起こし、重度の場合は死に至ることもある怖い病気です。現地では当院の技師が超音波による検査を行うとともに、派遣要員がこの病気にならないための啓蒙活動を行いました。

## ●感染症（ノロウイルスによる感染性腸炎、B型インフルエンザ）

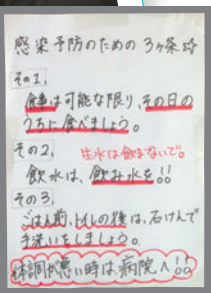
ノロウイルス腸炎は、冬場に牡蠣を生で食することなどにより発生することが知られていますが、通常のアルコール消毒では殺菌されず、感染力がとても強いため、環境が不衛生になりがちで、大人数が集う避難所では集団感染につながります。4月16日の発災から、1週間目の22日には、早くも下痢、嘔吐を訴え、私たちの医療テントを受診する方が増加し、検査の結果、ノロウイルスによる腸炎と判明、流行の拡大が懸念されました。

そこで私たち救護班は、熊日本赤感染管理チームと協働し、徹底的な感染対策を直ちに導入しました。避難所のトイレの床が常に濡れており、トイレで使用した靴のまま避難所内に入ったりしていたことから、避難所を清掃し、土足禁止にするとともに、患者さんを別のスペースで隔離管理、手洗い設備を拡充、手指消毒剤の設置、避難者への啓蒙活動を行いました。

時期を同じくして発生したB型インフルエンザに対しても、患者さんを隔離し、毎日巡回診療を行いました。これらの処置が功を奏し、感染を封じ込めることに成功しました。



手洗い・手指消毒の仕方など、避難所生活での感染症予防を呼びかけました。



南阿蘇中学校のグラウンド

## Information

# 「患者情報室」を開設しました

平成28年4月1日より、がんに関する情報を自由に閲覧できる「患者情報室」を開設しました。手続きなどには必要ありませんので、ご納得でもお気軽にご利用ください。

### 開設の理由

厚生労働省が指定する「地域がん診療連携拠点病院」では、がん治療などに関する情報を患者さんが容易に得られる場所を提供することが望ましいとされています。

当院も「地域がん診療連携拠点病院」に指定されているため、患者さんやご家族、また地域住民の方々にがんに関する情報を提供することを目的として、開設しました。

### 患者情報室の内容と利用について

各種がんの解説本やリーフレット、インターネット用のパソコンを設置しており、各情報室を自由に閲覧していただくことができます。

### ■場所／2階緩和ケア外来横

### ■利用時間／平日午前8時30分～午後5時

※土・日・祝、創立記念日、年末年始を除く。

ご利用に関してご不明な点などがございましたら、2階⑧番窓口（医療社会事業課）までお問い合わせください。



2階緩和ケア外来の隣のお部屋です。お気軽にお入りください。



がん関係のパンフレットと書籍を設置しています。ソファに座ってゆっくりご覧ください。



ご利用は30分以内でお願いします。インターネットも自由にご利用いただけます。



当院が発行している各種がんのパンフレット



お持ち帰りいただけるパンフレットやリーフレットもご用意しています。



## Event

### 全日空より「しあわせの花」 すずらんが届けられました



6月2日(木)に、ANAグループ(全日本空輸株式会社)の皆さんが、北海道で栽培されたすずらんの花の鉢植えと、すずらんの香りが楽しめるしおりの贈呈に来院されました。すずらんの寄贈は、昭和31年以来、今年で61回目を迎えました。

この日、隠岐院長はじめ職員が1階正面玄関でお迎えし、寄贈セレモニーが行われると、続いて客室乗務員と地上旅客係員の皆さんが、1階玄関ホールや8階A病棟と10階B病棟を訪問し、しおりを患者さんやご来院の方々へ手渡されました。しおりににはグループ社員の皆さんによる手書きのメッセージが書かれており、またすずらんの絵の部分をごすと、すずらんの香りが出るというもので、配られている間もすずらんの爽やかな香りがし、患者さんやご来院の方々も喜ばれていました。

「しあわせ」という花言葉をもつすずらんが病院に届けられ、幸せな笑顔が院内に広がりました。

手書きのメッセージが  
書かれたしおり



## News

### 熊本地震義援金・赤十字運動月間のご報告

平成28年4月14日に発生した熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震により、熊本県益城町を中心に大きな被害が出ました。この災害で被災された方々を支援するため、日本赤十字社は「平成28年熊本地震災害義援金」を受け付けました。当院でも院内に数力所募金箱を設置し、6月30日時点で179,905円のご協力をいただきました。お寄せいただいた義援金は全額、日本赤十字社より、被災県に設置された「義援金配分委員会」を通じて、被災された方々へお届けします。

また、日本赤十字社は毎年5月・6月を「赤十字運動月間」として、赤十字社の理念や活動を皆さまに知っていただき、活動資金のご協力をお願いしています。当院でも5月に院内数力所に募金箱を設置し、皆さまから82,796円のご寄附をいただきました。

皆さまのご厚意に御礼申し上げますとともに、今後も日本赤十字社へのご協力をよろしくお願いいたします。

## Event

### 『あじさいコンサート』が開催されました



6月25日(土)、あじさいコンサートが、今回は3部構成と盛りだくさんの内容で開催されました。大阪赤十字病院附属大手前整肢学園の看護師をはじめ学園職員による金管楽器の「ジブリメドレー」などが、続いて健診業務課の事務職員とゲストによるクラシック曲が演奏されました。その他、7階B病棟と8階A病棟の看護師によるピアノ連弾や、ゲストによる迫力ある歌唱も披露されました。当日は雨でしたが、会場は爽やかな音色に包まれ、来場者の皆さまには癒しのひとときを過ごしていただきました。

## Event

### 大阪赤十字病院『市民公開講座』 を開催します

テーマ：緩和ケア

～がん患者さんの「自分らしく生きる」  
を支える場所の選択について～

当院では、一般の方を対象とした市民公開講座を年に一度開催しています。今回は、がん患者さんの緩和ケアをテーマに行います。講師3名(緩和ケア科部長、がん専門看護師、社会福祉士・精神保健福祉士)が、がん患者さんの「自分らしく生きる」ための緩和ケアについて詳しくお話しします。講座を通じて、日頃の不安や疑問を少しでも解消していただければ幸いです。どうぞ、お気軽にご参加ください。なお、参加費は無料、事前のお申し込みは不要です。

●日時/平成28年10月29日(土) 13:00～15:30

●場所/大阪赤十字病院看護専門学校  
1階合同教室

●講師/大阪赤十字病院  
緩和ケア科部長 端 裕之  
がん専門看護師 谷口 香織  
社会福祉士・精神保健福祉士 野村 美奈子

●お問い合わせ先/

大阪赤十字病院 診療情報管理課  
TEL:06-6774-5111(内線2302)



昨年の公開講座の様子

## Event

### 『災害訓練』を開催します [実施日:10月1日(土)]

大阪府災害拠点病院に指定されている当院では、毎年、近隣地震災害を想定した実践型訓練を行っています。今年は10月1日(土)午前から昼過ぎにかけて行う予定です。訓練中は救命救急センターも含め全館休診とし、病院敷地内への立ち入りや、建物への出入りが規制されます。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



昨年の災害訓練の様子

### 人事異動情報 (平成28年5月1日～7月1日)

採用 (5月1日付) ●産婦人科/医師・中川 江里子 (6月1日付) ●整形外科/専攻医・森本 直樹 ●麻酔科/非常勤嘱託歯科医師・渡辺 昌広  
退職 (5月31日付) ●産婦人科/医師・高松 士朗 ●皮膚科/非常勤嘱託医師・中島 利栄子

## 病院のご案内

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)  
初診/月曜日～金曜日 8:30～11:30 再診/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください)  
平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00  
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。  
また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は  
敷地内全面禁煙です  
当院は平成22年12月1日より、敷地内全面禁煙を実施しています。ご理解とご協力をお願いします。



## 大阪赤十字病院

大阪府天王寺区筆ヶ崎町5-30 平成28年7月発行

■お問い合わせ

TEL:06-6774-5111 (代表)

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>  
赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

